

はじまりは

fusakawakei

10年ぶりに「ご指名」の本が見つかった。

慣れないタッチパネルの携帯と悪戦苦闘し、

ようやく手にいれた。

行きついた先が、この「パブー」だそうだ。

驚くことに、その本の販売価格が200円なこと。その作者が書いた2冊を、購入した。
ご指名で本を買うのはつぶりだろう？

指折り、ちょうど両手ぶん。

10年ぶりになる。
その10年の間にわたしは成人し、結婚して姓が変わった。変化といえはこの程度か。

10年前に探していた本より、よっぽど衝撃も感動もある作者。

驚いたのは、彼が私と同じ年、24歳たらずなこと。

24歳くらいの男友達は少ない。

情緒不安定なやつが多いからだ。

大概、世の中に対して早めの失望を抱き

開口1番オンナの話。

「やべえ」この非常に便利な単語で、

彼らの意思はツーカー状態になる。

「やべえ」

「やべえ」

そんな24歳を多く見た。

住んでいる場所が悪かったのか？

数年前までクラブ音楽の情報誌、ヤングチャンピオン等の雑誌でモデルやグラビアの仕事をして
いた。

22歳で失望しきった。

東京はキラキラなんてしてないし、それどころかあらゆる洗礼で私を試す。

そのたび心は折れかけ、故郷仙台に帰ろうとした。

なんべんも。

そんな感じ。
もう何も期待しない。

例えば
身に纏うもの、寝る場所、食べるものに関して、まったく関心がない。

事務所のすすめで、ブログを書いている。

衣食住の紹介。

「三流オンナ」のそれに興味を持つものなどいるのだろうか・・・。

案外いる。

生まれてから本とともに生きてきた。活字が落ち着く。

小学校に入学すると、図書館の左端から手にとり、右にずらしていく。
名前を記入し、読み終えたら返却にいく。その繰り返し。

6年間繰り返すころには、全ての本に私の名前が記され、卒業間近には金平糖を貰うようになった。
ミハエルエンデも、ジキルも、マザーテレサもはだしのゲンも、ここで出会ったのだ。

中学に入学すると、状況が一変する。

読書少女に

「剣道」

とゆう武士道が与えられたのだ。

母が強くすすめた。

授業に参加せず、ランドセルもいやがり、ブラジャーを電信柱にくくりつけながら登校し、

「反省文」なるものは

図書館で辞書をひき

「禿

禿禿・・

」

そんな私を心配したのだろうか。
もう会うきっかけがなくなり、尋ねることもできないけど。
母は中学校まで乗り込んできて、私の入部届けの欄を「卓球部」から「剣道部」に変更してしまった。